

組合スポットライト

企業組合かほくイタリア野菜研究会

- 所在地: 西村山郡河北町谷地字月山堂 ● TEL: 0237-73-2122
- URL <http://kahoku-italia-yasai.com/> ● 設立: 平成25年3月 ● 出資金: 550千円
- 組合員数: 17名 ● 主な事業: かほくイタリア野菜の共同生産及び共同販売事業



トレヴィーゾ

企業組合かほくイタリア野菜研究会は、平成23年に町と商工会の農商工連携事業の一環としてかほくイタリア野菜プロジェクトを発足した。

『国産のイタリア野菜を使いたい品物がなくて買えない…』そんなイタリアンシェフの一言から事業が始まり、欲しがっている人がいるのに品物がない、それならば河北町で作ろうとなった。

たくさんあるイタリア野菜の中から、シェフと話し合い、栽培の中心に据えたのが、イタリア野菜の王様とも言われる高級冬野菜、『トレヴィーゾ』。トレヴィーゾの原産地はアルプス山脈近くの寒冷な地域で、山形県と気候環

境が似ている。また、12月から3月頃まで出荷が可能なので、冬場の畑を利活用できることも利点と考えた。

トレヴィーゾをはじめとしたイタリア野菜の産地形成を図り、日本でイタリア野菜の産地といえば山形県河北町であると言われることを目標に掲げている。イタリア野菜の切り口として高付加価値農業の確立と6次産業の推進を図りながら河北町全体を活性化するため、商工会が中心となり作り手である農家と使い手である飲食店や行政、金融機関が連携を図り、平成25年に組合を設立した。

企業組合に販売窓口を一本化することにより、会員は生産に集中でき、レストランは少量多品種の一括注文が可能になり仕入の手間を省くことができる。生産者同士の価格競争が起こるリスクがなく高価格販売、ブランド形成の面でも効果を発揮している。また、知事認可団体の信用力も取引する上で有利に働いている。

会員を河北町内に限定しないのは安定供給を重視するため、夏場にも冷涼な気候を好む葉物野菜を栽培できる適地を探した結果、西川町の生産者も組合に加入している。

イタリア野菜は日本の野菜とは異なり、苦みやえぐみが強いという特徴を持っており、一般には知名度が低い・料理方法が知られていない等の理由から、現在は9割が県内や東京都内のレストラン(55店舗)と直接取引を行っている。今年に入り県内一円に配送ルートを持つ食材流通会社「和光食材」と業務提携し、さらに販路の拡大を行っている。

組合の取り組みとして、各種イベントや料理教室を通じてのイタリア野菜の啓蒙活動や収穫体験等による観光振興事業を行い参加者からも大変好評を得ている。

